教育現場で活躍する福祉の専門家
スクールソーシャルワーカーとは？

Zushi Kenichi
厨子　健一
奈良教育大学 学校教育講座

教育現場で活躍する福祉の専門家
スクールソーシャルワーカーとは？

奈良教育大学　学校教育講座　厨子 健一

１．はじめに

学校にはどのような専門家がいるでしょうかと問われると、多くの人が「先生」とこたえると思います。もちろん正解です。学校に行くと、多くの教員が子どもの学力や社会性の向上に向けて、さまざまな教育活動をしている姿をみることができます。

一方、学校には教員以外の専門家もいます。人のこころに焦点をあてたスクールカウンセラー、人を取り巻く環境に目を向けるスクールソーシャルワーカーなどが教育現場に配置されています。福祉の専門家であるスクールソーシャルワーカーは、導入されたのが最近ということもあり、その名前を聞いたことがある人は数少ないと思います。

日本では、2008 年度に文部科学省によるスクールソーシャルワーカー活用事業が開始されました。わが国は，国事業として始まって約 10 年ですが、スクールソーシャルワーク発祥の地のアメリカは、100 年以上の歴史があります。

ここでは、①そもそもソーシャルワークとは何か　②学校にスクールソーシャルワーカーが必要となっているのはなぜか　③スクールソーシャルワーカーの仕事は何か、という３つの説明を通じて、学校に福祉の専門家が必要であることを実感してほしいと考えています。

２．ソーシャルワークとは？

社会福祉の専門的な実践・方法を「ソーシャルワーク」といいます。ソーシャルワークを行う人を「ソーシャルワーカー」と呼びます。では、ソーシャルワー

カーは，どのような仕事をしているのでしょうか。

質問ですが、これまでの人生を一人で生きてきましたか。おそらく、回答は「いいえ」でしょう。家族、友人、先生、恋人などに支えられて生きてきたと思います。いいかえると、人は周りの環境から影響を大きく受けて成長します。ときには悪い影響を受けたことがあるかもしれません。

ソーシャルワークでは、人を取り巻く環境に注目します。環境は、人、家族、学校、地域、制度、サービスなど、あらゆるものを指します。人が課題を抱えたとき、ソーシャルワーカーはその人自身にくわえ、人にとってストレスとなる環境がないかどうかに着目します。そして、生きづらさを生み出している環境に働きかけたり（①）、人と環境との橋渡し（②）をする仕事をします（図１）。環境では、人に必要な制度やサービスへもアプローチします。最終的に、人と人、人と制度・サービスをつなげることになるので、ソーシャルワーカーは「つなぐ」仕事をしているといわれています。さらに、大切なことがあります。ソーシャルワークでは、日常生活上の課題（生活課題）を対象とします。つまり、子どもを例にとれば、子どもの学校での課題だけでなく、家庭や地域においての問題もないか考えます。

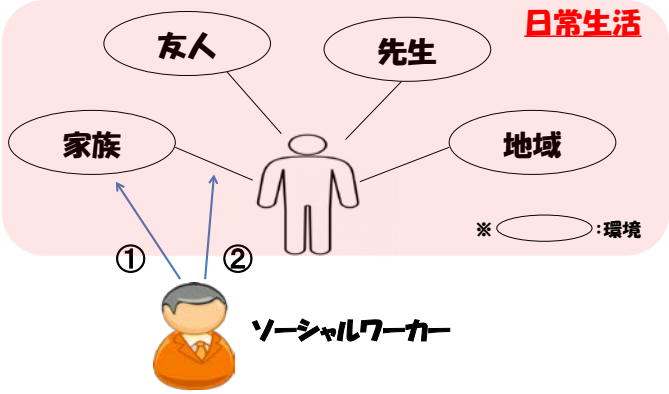

図1 ソーシャルワーカーの仕事

ソーシャルワーカーは、課題を抱えた人の生活全般にアプローチします。そのため、他の専門家からみると、何をしているのかとらえづらい場合があります。ソーシャルワーカーは、教育現場、医療現場、高齢者施設といったさまざまなフィールドで働いています。いかなる現場においても、課題を抱えている人にとって生活の質が高まる環境のあり方は何かを日々考えています。

３．学校にスクールソーシャルワーカーが必要なわけ

スクールソーシャルワーカーが学校に配置される理由として、①子どもの問題を早期に発見できること　②課題の予防につながること、の２つがいわれて

います（山野 2016）。①では、小中学校は義務教育のため子どもの全数把握が可能です。また、一日の多くの時間を過ごすのは学校です。したがって、子どものちょっとした異変にも気づくことができます。②は、児童相談所や福祉事務所といった外部機関には、なかなか行きにくい場合があります。しかし、学校内に福祉の専門家がいることで、子ども、家庭、教員が気軽に相談できます。そのことは、少しでも早い対応につながるといえます。

では、学校では生活環境に課題を抱えていそうな子どもはいるのでしょうか。つぎに示すデータは、大阪府内の教員 3089 名にアンケート調査をしたものです。保護者の困り感を尋ねる問いがあり，「あてはまる・ややあてはまる」に回答した教員の割合を表したのが図２です（山野・厨子・赤尾 2011）。

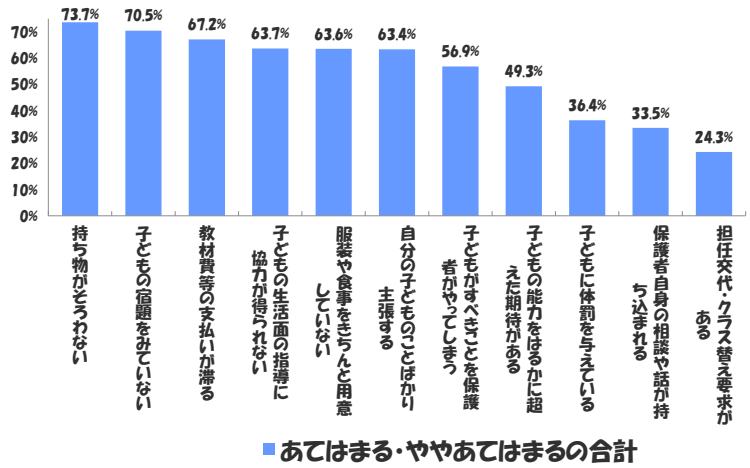

図2 教員の保護者への困り感

結果をみると、「持ち物がそろわない」「子どもの宿題をみていない」「教材費等の支払いが滞る」「子どもの生活面の指導に協力が得られない」「服装や食事をきちんと用意していない」「自分の子どものことばかり主張する」という項目について、60％を超える教員が困り感として「あてはまる・ややあてはまる」と回答しています。

結果から、子どもの周りの環境に課題があることが推察されます。保護者の困り感は、ダイレクトに子どもの行動や心情に影響を与えます。したがって、子どもだけのアプローチでは、子どもの安心・安全な生活の維持はむずかしいといえます。今、児童虐待や子どもの貧困といった課題がクローズアップされています。これらの課題も家庭支援が不可欠です。環境要因を探り、早期にアプローチできるスクールソーシャルワーカーが、学校に必要といえるでしょう。

４．事例をとおしてスクールソーシャルワーカーを知る

ここでは，華子の事例を挙げ，スクールソーシャルワーカーがどのように働きかけるのかについて見ていきたいと思います。

～華子の事例～

「娘を学校には行かせない」、母親の電話を受けた担任は驚きました。「華子はいじめられています」といわれ、担任は家庭訪問をしましたが追い返されました。以前から母親と担任の関係は良くありません。

ある日、養護教諭と学年主任が家庭訪問をすると、母親は泣き崩れました。家庭は父親と母親、華子の３人です。父親は単身赴任、母親は専業主婦です。また，母親は地域になじめていません。

華子が中学２年生になったときから、母親との喧嘩が多くなっています。母親が、華子の機嫌が悪い理由を問いただすと、「クラス替えがあり、仲の良かった良子が美和子と仲良くなり、避けられるようになった」というそうです。話を聞いた母親は感情的になって担任に電話をしましたが、直後から華子が学校に行かなくなり、どうしたらよいのかわからないといいます。

担任が華子に話を聞くと，「突然、無視されるようになった。中学１年生以降、何かわからないけどイライラする。お父さんは帰ってこない。お母さんも、自分にあたる」といいます。担任は良子と美和子にも聞き取りをし、「最近，華子は暴言が多くなり、こちらから避けたわけではない」といいます。

出所：郭（2016）をもとに大幅修正

事例検討にあたり、「エコマップ」を作成します。エコマップとは、当事者に影響を及ぼしている環境との関係性の全体を示したものです（図３）。関係を線で表すことで、強い関係や葛藤関係となっているのはどこかが分かります。

図３をみてどのように感じたでしょうか。華子は家庭でしんどい思いをしているのではないだろうか、母親は一人で子育てをしており、地域からも孤立しているのではないだろうか、父親と母親の関係はどうなのだろうかなど、さまざまな意見が出てくると思います。エコマップは、華子の良子・美和子とのトラブルは、複雑な要因がからみあって生じているのではないか、と考えるきっ

かけを与えてくれます。つまり、華子が課題を引き起こしたのには、何か理由（背景）があることに気づかせてくれます。

スクールソーシャルワーカーは、①環境への働きかけ　②人と環境との橋渡しをします。大切なことは、スクールソーシャルワーカーは一人で動くのではなく、教員や他の専門家とチームを組んで、華子の環境を調整するということです。あらゆる環境への幅広い支援が求められるため、役割分担が必要です。

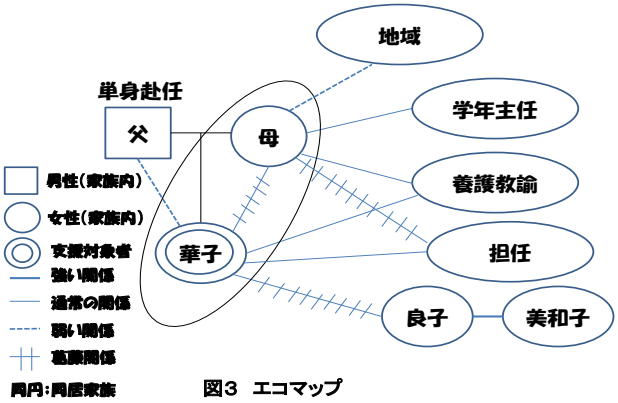

図３　エコマップ

①では、華子の学校内での居場所、母親の相談相手、地域における孤立などに対するアプローチが必要です。父親へのかかわり、良子・美和子へのアプローチも欠かせません。必要に応じて、福祉・医療機関などと連携をし、華子の周りの環境を整えていきます。②では、改善された環境を華子と結びつけることが重要です。たとえば、華子と母親との関係において、お互いの頑張りをスクールソーシャルワーカーが代弁することで、良好な関係づくりを目指します。

事例で大切なことは、①子どもの課題には背景があり、とくに家庭環境は子どもに大きな影響を与えている　②華子だけでなくあらゆる環境に目を向け、華子と華子にとって重要な環境との調和をはかる、この２つといえます。

５．おわりに

スクールソーシャルワーカーは、子どもの生活全体にかかわります。したがって、家庭、学校、地域など、あらゆる対象へのダイナミックなアプローチを展開します。幅広い活動のため、何をする専門家なのか理解されていない場合も少なくありません。教員を志す方には、生活課題を把握し、人と人、人と制度・サービスをつなぐ専門家がいることを知っておいてほしいと思います。

〔引用文献〕

郭理恵（2016）「いじめとスクールソーシャルワーク」山野則子・野田正人・半羽利美佳編『よくわかるスクールソーシャルワーク 第２版』ミネルヴァ書房，150-153.

山野則子（2016）「スクールソーシャルワークの意義」山野則子・野田正人・半羽利美佳編『よくわかるスクールソーシャルワーク 第２版』ミネルヴァ書房，32-33.

山野則子・厨子健一・赤尾清子（2011）『スクールソーシャルワークに関するハンドブック 改訂版』大阪府立大学山野研究室.

厨子 健一（Kenichi Zushi）

2010 年　大阪府立大学大学院 人間社会学研究科
　　博士前期課程修了
2014 年　和歌山信愛女子短期大学 助教
2015 年　奈良教育大学 特任講師
2016 年　同大学 特任准教授
2017 年　愛知教育大学 専任講師（４月着任予定）

【研究テーマ】

スクールソーシャルワーカーの効果

教育現場にスクールソーシャルワーカーが配置されるようになって，まだ 10 年も経過していません。現場からは，「スクールソーシャルワーカーが配置されることで，子どもや学校がどう変わるか？」という声をよく聞きます。スクールソーシャルワーカーの効果について，インタビューやアンケートから明らかにしています。

【著者の自己紹介】

－趣味

美味しいコーヒーを飲むこと。
からあげや天ぷらなどの揚げ物を，自分でつくって食べること。

－座右の銘

何とかなる。
悩み苦しんだ経験が数多くありますが，諦めない心をもち，一方で，何とかなると思うことで，うまく人生をわたってきたと思います。

－これから挑戦してみたいこと

シュノーケリング

－今の研究分野を選択したきっかけ

社会に役立つ仕事をしたいと思っていました。何をしようか考えていたとき，たまたま本屋に立ち寄りました。そのとき，「スクールソーシャルワーク」ということばが含まれている本を見つけ，「これだ！」と心の底から思った感覚は，今でも忘れません。

教育現場で活躍する福祉の専門家
スクールソーシャルワーカーとは？

著者　厨子（ずし） 健一（けんいち）
2017 年 3 月 31 日 第 1 版
奈良教育大学出版会
〒630-8528
奈良市高畑町
TEL: 0742 (27) 9135　FAX: 0742 (27) 9147
E-mail: g-kenkyu@nara-edu.ac.jp
URL: http://www.nara-edu.ac.jp/PRESS/